

漁村の地域交流の場を目指し やまだ漁協が番屋を設置

9月4日、「三陸やまだ漁協番屋」の贈呈式が山田魚市場向いの番屋で行われました。これは公益財団法人日本財団の支援の下、水産関係者のみならず地域全体のコミュニティ形成の場の確保を目的として設置されたものです。式において同財団の荻上健太郎海洋グループ海洋安全・教育チームリーダーは「地域の皆さんが活動できる場、地域文化の継承の場として活用していただきたい」とあいさつ。番屋は、学習室や漁業体験コーナーなどを備え、地域の交流の場としての活用が期待されます。



着工から5年越しの完成 柳沢地区新桃山橋渡り初め

9月9日、柳沢地区において新桃山橋の渡り初め式が行われました。平成21年に工事が開始された同橋でしたが震災の影響で工事が約一年間休止に。今回、5年越しの完成となりました。神事後、佐藤町長は「たくさんの支援のおかげで完成した。感謝したい」と、あいさつ。佐藤町長や代表者らがテープカットをし、新しい橋を一步一步踏みしめると訪れた人からは拍手が送られました。都市計画道路の一部である同橋は、新たなまちづくりでの復興道路としての役割が期待されます。

町内グループが互いの意見を交換 山田わわわ祭りで活動報告

「広げよう友だちの輪、つなげよう伝統の環、愉しもうやまだの和」の三つの「わ」を掲げ、町内のグループ活動を支援している（公財）国際開発救援財団FIDR。このグループ間の情報交換会「山田わわわ祭り」が8月28日、町中央コミュニティセンターで開かれました。第1回目のこの日は、9グループから約40人が参加。グループ紹介や活動報告などを行いました。「声掛けが一番大事」「回覧板も効果的」などの意見が出され、参加者はこの成果を今後の活動に生かしていこうと意欲を燃やしていました。



十人十色の歌声が会場に響く 町長杯カラオケ大会が開催

8月31日、町中央公民館大ホールにおいて「第7回山田町長杯争奪町民ふれあいカラオケ大会」が開催されました。平成5年から中断していた同大会でしたが、21年ぶりに復活。当日はエントリーした20組の自慢の歌声を聞こうと約600人が会場に訪れました。混戦の中優勝に輝いたのは映画の主題歌として有名な「アンチエインドメロディ」を見事な英語で歌いきった東海林成人さん（59）。また特別ゲストの小田代直子さんのステージショーも行われ会場は歓声に包まれました。



町のわだい

—— 今月の題字 佐々木 ^{わかな}和華さん（山田南小6年）



火災防ぎょ訓練での放水



航空自衛隊のヘリコプターによる救出訓練



浜川目仮設住宅で行われた応急飲料水確保訓練

津波・大雨災害に備え 町総合防災訓練実施される

9月7日、町総合防災訓練が行われ、関係団体や町民など1,109人が参加して万が一の災害に備えるための各種訓練を行いました。町民の皆さんを対象とした津波避難訓練では、町全体で551人が高台などへ避難したほか、大沢婦人会と船越婦人会による応急食料炊き出し訓練や応急飲料水確保訓練を実施。前県立山田病院では、水防訓練や建物に取り残された人の救助を想定したヘリコプターによる救出訓練が行われました。最後に佐藤町長が、「ことしの参加者は昨年の7割となった。危機意識の風化を防ぎ、気を引き締め訓練を続けていく」と、訓示しました。

山田中学生が工事現場を見学 町の未来に思いをはせる

8月25日から27日にかけて、山田中学校（福士幸雄^{ゆきお}校長）の全校生徒375人が工事現場を見学しました。これは生徒が町の現状を知り、自分に何ができるか考える機会を持つために行われたものです。8月27日は1年生が土砂をくお現場やベルトコンベヤーを見学。生徒らは、土を運ぶ方法にベルトコンベヤーが採用された理由や運ばれる土がどのように使われているかの説明を聞き、工事の概要をしっかりと理解しているようでした。今回見学した関峻太郎^{しゅんたろう}君（1年）は「身近でこのようなすごい工事をしているの知って驚いた」と、話しました。

